

科研費対応 ad hoc 委員会

日本医学物理学会 会長 殿

平成 25 (2013) 年度の活動につき、下記の通り報告します。

報告者氏名 小泉 雅彦

委員 委員長◎ 副委員長○ 顧問コ	小泉雅彦◎、松本 政雄副会長 山本 徹、石川 正純、柴 武二、西尾 禎治、和田 真一、豊福 不可依、荒木 不次男、小口 宏、有村 秀孝、福士 政広 (新保 宗史 庶務理事)
今年度課題	<ol style="list-style-type: none">H25 年 11 月 16 日理事会にて科研費対応 adhoc 委員会の構成経緯説明・報告をし、会の設立が承認された。委員候補が挙げられ、全員が承認された。科研費 H26 年度申請項目に「医学物理学・放射線技術学」の細目の設定は大きなインパクトありと会員へアピールする必要がある。会員への周知と応募促進に努力する。永続化のための応募 100 件というハードルを超えるべく、応募がうまく行われ、越えられるように計らうようにする。具体的には (ア)研究番号が取れない施設にいる会員や研究者番号が取れるのにそれを知らない会員に対するケアなどが必要。 (イ)来春大会のセッションに本件を組込む(既に実行委員会・教育委員会で実施決定済) (ウ)アンケートを実行すること(ネット回答可の形式で)を検討する。
委員会開催 履歴	9 月 1 8 日 (水) 1 4 - 1 5 時 / 第 106 回 学術大会会期中 大阪大学コンベンションセンター 出席 9 名
総括 不足の場合は別 紙付加可	当 ad hoc 委員会が設立されたことは科研費応募の機会を促進する上で大きな意義がある。医学物理学会員 (JASTRO, JRS 含む) へのメーリングリストなどを経て会員への働きかけを一定行った。その効果について評価する必要がある。 今後も引き続き、応募がスムーズに行く様、年次総会での特別企画、広報活動などを行っていく。